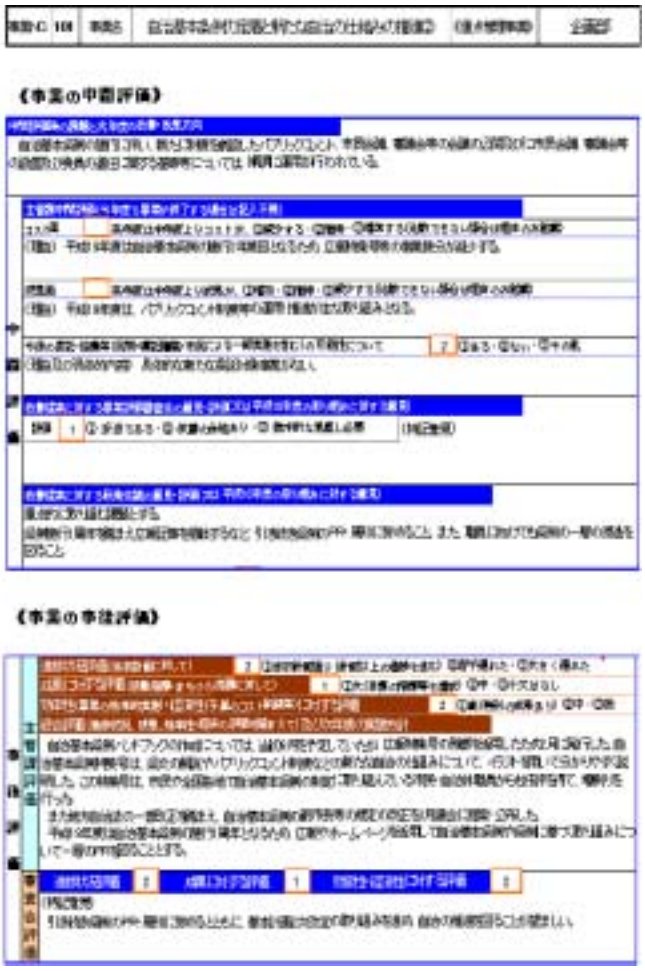
平成 18 年度 事業評価表の見方

○　事業評価表は、左ページでは、当該事業の目的、概要、目標（値）、予算・決算額、実施スケジュールなどを掲載しています。また、右ページでは、事業の中間評価と事後評価を掲載しています。

○　事業の目標（値）である、「活動指標」は、行政の事業・活動の内容量の数値等を記載しています（例．SOHO 支援セミナーを○○回開催。バリアフリー道路を△△キロ整備）。同様に、「まちづくり指標」は基本計画と同じ考え方で、「成果指標」として事業実施によって目指す結果・成果等の指標です（講演会の参加者が○○人で、アンケートによる満足度は△△%。市民一人当たりの図書貸出し冊数等）。そして、まちづくり指標のうち、主に行政を推進主体とするものは「①行政指標」、多様な推進主体の協働によって実現を目指すものは「②協働指標」としています。

○　年度別明細において、「平成 16 年度」、「平成 17 年度」及び「平成 18 年度達成」の欄は、それぞれの年度の実績値を、「平成 18 年度目標」は、評価表の当初計画を策定した６月時点の目標を記載しています。

○　事業の中間評価では、中間評価を行う 9 月時点での当該事業の課題と改善方向を記載しています。また、この時、各事業のコストや成果の向上の程度を点検し、平成 19 年度の方向性を「主管課中間評価」として記載します。ただし、平成 18 年度で終了する事業や平成 18 年度と 19 年度の予算や成果を一概に比較できない場合（例えば、平成 18 年度は設計で、19 年度は工事に着手する事業）などは空欄になっています。また、平成 18 年度で終了する事業は、中間評価を行っていません。

○　平成 18 年度の事後評価の全体的な傾向等につきましては、白書本編 第Ⅱ章「３．平成 18 年度事業評価 対象事業の評価結果概要」をご参照ください。